



失敗してからでは遅すぎる

## 霊園選びで失敗しない 7つの鉄則

### はじめに

高齢社会や小児化社会を迎えている今、お墓や霊園はどのようにして手に入れたらよいのかについて、さまざまな不安を持ちながらも『その時』を迎え、あわてて決めてしまう方も多いようです。

しかし、お墓や霊園の購入は、まさに末代物です。しかも近年は、納骨壇や合祀墓など新しい形式のお墓も増え、さまざまな選択肢が得られるようになりました。

そこでさまざまな形式の中から、将来のことや大切なご家族のこと、そし

てご自身のことを考えながら、霊園や墓地を選択し、納得して購入するにあたり、最低限知っておかねばならないことがございます。

『霊園選びで失敗しない7つの鉄則』では、これからおそらく一生に一度の霊園や墓地の購入をお考えになられるあなた様が、あわてて決めてしまったり、正しい情報の不足で、知らなかった為に『失敗した。もったいい場所があったのに……。』『思いもかけない多額の費用がかかってしまった』などといったように、思わぬところで発生する問題や悩みにお答えします。また、お墓にもお寺の墓地や公園墓地や

安置する場所ではなく、亡くなられた方を思い、ご供養を続ける為のものとして、大切な意味を持っています。

そのような中で、墓地や霊園の購入という、初めてのご経験で、分からないことが多いのは当然のことですが、正確な情報を知った上で失敗の無い霊園選びのお役に立てればとの思いから、この「霊園選びで失敗しない7つの鉄則」を記載させていただきますました。

『総額を概算で聞いていた為に、後で彫刻代や加工料などを追加請求されてしまった』とか『早く納骨しなくてはとあわてて選んだためにお墓参りが

納骨壇などさまざまな形式があるなかで、どのような形式にしたら良いのかなど、よく分からない為に起こる霊園選びにおける不安や疑問にもお答えしていきます。そして、霊園や墓地について分かりやすくご紹介する事で、後悔しない霊園選び、失敗の無い霊園選びで、皆様の暖かいお気持ち、確かな形になりますようにしたいと思います。

ひとくちに霊園、墓地といいますが、経営や管理状態、環境や付帯設備、料金や運営システムなどその内容はさまざまです。

そして霊園や墓地は、単にお遺骨を非常に不便なところを選んでしまった』とか『宗派不問という言葉の意味を取り違えていた』とか、意外と失敗談やトラブルが多いのも事実なのです。

是非とも霊園や墓地をお選びになる前に、お読みになつていただき、出来るだけ多くの情報を集め、実際に現地を見学されてからじっくりとお考えの上お決めになられることをお勧めいたします。

正確な情報提供に努めましたこの記述が、霊園や墓地購入に際し、少しでもお役に立てれば幸いに思います。



## 鉄則一

『お墓を買う』ということはどういうことでしょうか

霊園や墓地も、土地や家などの不動産も『買う』と言います。しかし不動産を買うと言うのは所有権を得ると言うことですが、墓地を買うと言うのは、所有権を得るのではなく永代に渡つての使用権を得ると言うことなのです。不動産を買って所有権を得れば、売ることも、人に貸すことも出来ますが、墓地は買って使用権を得ても

霊園や墓地の価格はいくら位なのでしょうか

それではお墓や霊園はいくら位の費用がかかるのでしょうか。よく広告チラシに1区画いくらと書かれている価格は墓地のスペースの永代使用料だけの価格のことが多いのです。通常この価格に『石碑代』と『外柵工事代』そして文字入れの『彫刻代』等が加わります。これらの墓石は石材店から購入することになるのですが、注意が必要なのは、多くの霊園が墓石の購入先の石材店を指定している場合が多いの

売ることも貸すことも、墓地以外の目的に使うことも出来ません。しかも万が一買いなおして、別の場所にお墓を造りたいと思つた場合、石碑や外柵などを自分の費用で取り除き、元通りの更地の状態にして返さねばなりません。したがって一度買ったお墓を買い直すことは大変な費用がかかることとなりますので、高額な墓地や霊園を購入する場合は、慎重の上にも慎重に検討したうえで購入することが大切になります。

で、石材店の指定があるのか、事前にたずねることが必要になります。

このように石材店が指定されている場合、知り合いの石材店から購入することも出来ませんし、価格も他の石材店と見積を比較することも出来ませんので、石材店の言いなりになるしかありません。

価格は石の種類によって大きく変わりますが、石碑と外柵を合わせて平均100万円から300万円位となり墓地の使用料と合わせますと150万円位から400万円位いと多額の費用がかかります。

## 鉄則 二

**ご自身に適した霊園や墓地を選びましょう**

このように石碑を立てる外墓の場合、多額の費用がかかるというに加えて、年々霊園用の土地が少なくなってきていることで、近年では公営の公園墓地形式や、民営の寺院観境内墓地以外にも、新しいお墓の形式が注目を集めています。

新しいお墓の形式としましては、お墓参りが楽に出来る屋内形式の納骨壇

**今、霊園選びの主流は、屋内納骨壇スタイル！**

このように、霊園やお墓も新しい形式が増えてきている中で、近年特に注目を浴びてきていますのが屋内霊園の納骨壇形式なのです。

納骨壇は、お墓に埋葬するまでの一時預かりの場であるとか、従来からの宗教観を持つ方にとっては、お墓参りの雰囲気欠ける、と考える方もいらっしゃるようですが、そのようなことは無く、生花やお供え物も外墓と同じように出来ますし、近年では立派なお墓

や、承継者のない方や夫婦だけの方のために、霊園側が永続的に供養する永代供養墓や、他人と一緒に合祀されることに意味を求める方の為の合祀墓などがあります。

このように、お墓に入る方の考え方や都合によってその形式を選ぶことが出来るのです。

そしてさまざまな墓地の形式によってその価格や使い勝手が大きく変わりますので、まず墓地の形式を知ること、最も自分に合った形式の霊園を選択することが大切なのです。

として誰もが認めてきています。

むしろ外墓に比較しますと、屋内にあるために風雨による石碑の汚れの清掃や草取りの心配も無く、雨の日も炎天下の中でも快適にお墓参りが出来ますし、何よりも墓石の購入や外柵工事の必要が無い為に、圧倒的に安価で済むことも大きな魅力ではないかと思えます。

ただ、霊園によっては、納骨壇には生花や供え物をおくこと禁止しているところもありますので、必ず事前に確認することが大切です。



## 鉄則 三

### 霊園全体の環境を重視しましょう

よく聞かれる失敗例に、さまざまな情報を収集することなく、あわてて霊園は遠方にあつて当たり前と言う感覚で遠方の霊園を購入したが、不便で遠い為なかなかお墓参りに足が向かない。もう少し近くて交通の便の良いところにすれば良かった。といったことが上げられます。

霊園や墓地は、単にお遺骨を安置する場所ではなく、亡くなられた方を想

### 墓地にとっての立地条件とは環境のこと

近くて利便性が良いことに加えても一つ大切なことは霊園全体が環境に優れていることです。

いくら利便性が良くて自宅から近くても、道路や周辺の環境が狭々しいところや、幹線道路沿いで交通量が多いところなどではゆっくりお参りなど出来ませんし、お年を召した方にとっては危険ですらあります。

せっかくお参りをするのであれば、リクリエーションを兼ねて、明るく日

い、ご供養を続ける為のものとして、大切な意味を持っています。

せっかく霊園を購入しても、不便な場所や遠方では、思い立ったときに気軽にお参りに行けません。

これからお墓を守られる方もますますお年を召していくことを考え、後々お墓参りが苦になることにならないよう、将来に亘っていつでも気軽に参りの出来る、利便性を重視して選びましょう。

当たりが良く、広々とした景観を備えた霊園を選ぶべきではないでしょうか。

とにかく最も大切なことは、ご家族と共に現地へ直接出かけ、『ご自分の目で確かめてみる』ということに尽きます。パンフレットやチラシを見ただけでなく、ご自分でお墓参りを実際に行なうことを想定して出掛け、ご自身はもちろん、子孫の方々が将来お墓参りを気持ちよく行なうことが出来るかどうかを想定して環境を確認してみることです。

## 鉄則 四

霊園内のさまざまな設備をチェックします

霊園選びで注意しなくてはいけないことは、霊園を取り巻く環境に加え、霊園内のさまざまな設備が整っているか、ということも重要なチェックポイントになります。くつろぎのスペースや談話室、食事を取るスペースや法事や葬儀が出来る法要施設なども欲しいところです。

又、駐車場が狭かったり、お墓から

## 鉄則 五

宗旨や宗派の規定によく注意する

近くの寺院墓地を購入したが、後になって多額の寄付や、お付き合いの大変さに戸惑ってしまったとか、宗旨宗派を問わずということで購入したが、檀家にさせられたり、今までのお坊さんのお経では駄目と言われたりと、宗旨宗派にかかわる失敗例は意外と多いものなのです。

購入するに当たっては、宗教は問い

水道施設や枯れ花を捨てる場所までが遠かったり、トイレも仮設トイレしかないといったことでは、お墓参りに出かけることが苦痛になってしまいます。

屋内の納骨壇の場合は、長い年月の間に、若かった方が車椅子を使うようになることも考えられますので、車椅子でも納骨壇まで行けるように、バリアフリーになっていることや、エレベーターが備え付けられているということは、もはや常識であると言えますが、念のためにしっかりチェックしておくことが大切です。

ません。宗旨・宗派は不問ですが、購入後は檀家として入壇料を・・・とか、法要などの供養のときには、当寺の宗旨で・・・等の制約がある場合がありますので最も注意しなければなりません。これは、購入後の制約がどうなっているかということなのです。

購入後も今の宗教宗派のままが良いのか、法要は自由な形式でよいのか、法要を懇意の住職に頼んでも良いのか等、本当の意味での宗旨宗派不問ということを納得のいくまで確かめます。



## 鉄則六

### 管理体制と管理母体を重視しましょう

霊園は永代に亘っての管理が必要です。管理母体や管理体制がしっかりしていないと、長い間には問題発生も予想されます。なかなか見極めは困難なのですが、民営の管理母体の場合、地元根ざしている、歴史ある企業やお寺であることや、管理事務所が仮設やプレハブではなく、マナーの良い管理人が常駐している管理事務所が、霊園

## 鉄則七

### 契約内容や金額はよく確認して契約を！

お墓や霊園を購入する際には、しなければならぬことや、心がけて欲しいことなど、さまざまな規則が決められています。

最終的な契約の際には、これらの管理規約や使用規則の内容に問題はないか、必ず全て目を通し、宗旨の事、指定石材店のことなど、不明な点は遠慮なく確認しましょう。

内にあること。霊園内は綺麗に清掃が行き届いており、設備も綺麗に手入れされていること、などをチェックポイントとして見極めることが大切です。

又、これらの管理に対しましては、霊園の購入者は、年間1万円程度の管理費の支払い義務が生じることも知っておかねばなりません。

この管理料は霊園内の水道の使用料や枯れ花の廃棄料、休憩室や参道、駐車場などの維持や清掃費にあてられません。

特に外墓の場合は、石碑の材質や寸法、花立や香炉の形状、石碑の加工内容等を、カタログまたはパンフの写真を元にチェックしましょう。

納骨壇の場合は生花が供えられるかどうかを確認し、納骨壇はパンフレットと実物が同じかどうかを実際に見て確認します。

お支払いにつきましては、ほとんどの霊園でローンを使うことが出来るようになっていきますので、無理のないお支払いを検討することが出来ます。